

II 避難所感染症予防対策

避難所は、集団生活の場であり、衛生状態が悪化しやすく、避難生活が長期に及んだ場合には体力の消耗により免疫力が低下することがあるため、感染症が拡大しやすい環境です。

そのため、環境整備や感染症予防対策等、発生時の迅速な対応をお願いします。

1 避難所で注意すべき感染症

感染症	主な感染経路	感染様式	主な予防・対応策
新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しんなど	飛沫感染	咳やくしゃみ・会話などの際に、しぶき（飛沫）を吸い込んで感染	手洗い マスク着用等の咳エチケット 換気
ノロウイルス等による感染性胃腸炎、腸管出血性大腸菌感染症（O157 など）	接触感染（経口含む）	病原体に直接・間接的に触れることによって感染 手指・食品・器具等を介して感染	手洗い 手袋着用 予防衣（ガウン） 環境消毒、換気
結核、麻しん（はしか）、水痘（水ぼうそう）	空気感染	空気中を浮遊する小さな病原体の粒子を吸い込むことで感染	N95 マスク着用 換気

※避難所内で感染症が発生した場合、保健所が避難者を対象とした調査を行うことがあります。

2 感染症の予防・対策

（１）手洗い

- 感染症予防の基本は、手洗いです。
- 流水と石鹸を用いた手洗いを励行しましょう。（参考資料 7 を参照）
手洗いのタイミング 食事前やトイレの後、外出から帰った時
- 避難所のすべての職員・ボランティア・避難者に対して、こまめな手洗いの励行を定期的に啓発しましょう。
- タオルの共用はせず、個人用タオルまたはペーパータオルを使用しましょう。
- 手洗い後にアルコール手指消毒薬を使用するとより効果的です。
- 手洗い用の水が確保できない場合は、ウェットティッシュ等で汚れを拭きとり、アルコール手指消毒薬を使用しましょう。

（２）个人防护具（PPE）の着用

- 个人防护具とは、マスクや手袋、エプロン、ガウン等のことです。
- 个人防护具は、用途に合わせて正しく選択し、正しく着脱することが重要です。
（正しい着脱方法については、参考資料 5 を参照）



【個人防護具の種類と使用方法】

PPEの種類	使用するタイミング	使用上の注意点
手袋	- 排泄介助、おむつ交換 - 血液、体液等に触れるとき - 吐物処理時 - 自分の手指に傷があるとき - トイレの清掃時	- 手袋は1 処置ごとに外して捨てる - 手袋をしたままドアノブなどに触れない - 手袋を外すときは、表面が汚染されているため、表面に触れないように外す - 外した後は必ず手洗いをする
マスク	- 咳をしている人と接するとき - 自分が咳をしているとき - 吐物処理時 - トイレの清掃時	- 汚染した場合はその都度交換する - 同じマスクを繰り返し使用しない（1 日使用したものは破棄する）
ビニールエプロンなど	- 血液や体液に触れる可能性があるとき - 吐物処理時 - トイレの清掃時	- 使い捨てビニールエプロンの使用が有効 - ビニールエプロンの裾が汚物に触れないよう注意する。 - 処置後は、表面に触れないように脱衣する

（３）有症状者への対応

- 有症状者への対応を迅速に実施できるよう、避難者に対し、有症状時には職員に申し出るよう周知しましょう。（参考資料 1 を参照）
- 感染症が疑われる患者または感染症患者が発生した場合は、他の避難者への感染拡大を防ぐため、隔離スペースで対応し、症状の詳細（どんな症状がいつから等）の聞き取りをしましょう。
- 避難者や職員が受診・治療が必要な場合に備え、医療機関の受診や医療チームの往診等の体制について、対策本部や保健部門に確認しておきましょう。
- 職員やボランティアは、感染症が疑われる症状（発熱、咳、咽頭痛など）がある場合は、避難所に行かないようにしましょう。

（４）消毒

- 血液や体液及び嘔吐物で汚染された場合や、感染症が疑われる場合は、汚染された場所や物を次亜塩素酸ナトリウム（家庭用の塩素系漂白剤で代用可能）やアルコールを用いて、消毒しましょう。
- 感染源となる細菌やウイルスに適した消毒薬を適切な方法で使うことが重要です。（消毒薬の種類と使用方法については、次ページの表を参照）
- 次亜塩素酸ナトリウムは、商品によって濃度が異なる（一般的な市販品は 6%）ため、原液の濃度を確認のうえ使用しましょう。
- 使用用途に合わせ希釈した消毒液をペーパータオル等に浸し、消毒箇所の拭き取り消毒を行いましょう。
 - ✓ 一度拭いたところに戻らないよう、一方向に拭き取りましょう。
 - ✓ 噴霧消毒（消毒箇所にスプレー等で直接噴霧すること）は避けましょう。

【消毒薬の種類と使用方法】

	次亜塩素酸ナトリウム	アルコール
商品名	ピューラックス、ジアノック、ミルトン、ハイター、ブリーチ 等	① アルコール消毒薬 エタノール、消毒用エタノール アルペット 等 ② アルコール手指消毒薬 ウェルパス、ヒビスコール 等
濃度	用途に応じて希釈（薄めて）して使用 ・濃度 0.1%（1000ppm） 便や嘔吐物が付着した床や便器、衣類等 ・濃度 0.02%（200ppm） ドアノブや蛇口など直接手で触れる場所 や環境	希釈せず、原液（70～80%）のまま使用
適応	避難所内での環境消毒に使用 （吐物処理時やトイレの消毒、嘔吐物・便 が付着した場所等）	避難所内での環境消毒・手指消毒に用いる ① 環境に使用（ドアノブやテーブル等の手 が触れる場所） ② 手指にのみ使用
留意点	・汚染状態では十分な効果が得られないため、汚れを取り除いた後に、薬液を用いた消毒を行う ・使用する際は、換気を十分に行う ・使用する際は必ず手袋を着用し、薬液が皮膚についた場合は直ちに水で洗い流す ・希釈した薬液は、時間の経過とともに効果が減少するため、作り置きはしない ・消毒薬の原液は、密閉のうえ冷暗所で保管する ・他の薬剤（特に酸性の薬剤）と混ぜると有毒ガスが発生するため注意 ・金属に対する腐食性があるため、消毒後に水で洗い流すまたは拭き取りを行う ・漂白作用があるため、色落ちに注意	①・②共通 ・ゴム製品や合成樹脂等は変質することがあるため、長時間浸さない ・引火性があるため、取り扱いに注意 ② ・手荒れに注意 ・粘膜には使用しない

ペットボトルを用いた消毒液の作り方

1. 準備するもの



2. 作り方

- ① ペットボトルの半分くらいまで水をいれる
- ② 次亜塩素酸ナトリウムの原液（ペットボトルのキャップ 1 杯=5ml）を作成する濃度にあわせて入れる
- ③ ペットボトルいっぱいに入水を入れ、ふたをしてよく振り混ぜる

0.1%濃度希釈液（1,000ppm）	0.02%濃度希釈液（200ppm）
水 2ℓ	水 2ℓ
次亜塩素酸ナトリウム （キャップ 8 杯分）	次亜塩素酸ナトリウム （キャップ 2 杯分）
便や嘔吐物が付着した床や便器、衣類 等	ドアノブ、蛇口など直接手で触れる場所や環境

- ※ 消毒液を作成したペットボトルは、**消毒液・飲用不可** 等の表示をして、乳幼児の手の届かない場所に保管するなど、誤飲を防ぎましょう
- ※ 作成した消毒液は、時間の経過とともに効果が薄れてしまうため、使用するたびに作成しましょう
- ※ やむを得ず、消毒液を作り置きする場合は、直射日光の当たらない場所に保管し、当日中（作成から 24 時間以内を目安）に使用しましょう
- ※ 作成した消毒液を用いた吐物処理方法は、「嘔吐物処理方法（P.8）」を参照ください